

埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会（保護者の部）

1 日時 令和7年8月23日(土) 9:30~12:00

2 場所 県民健康センター 中会議室

3 参加者 18名

4 教育局参加者

高校改革統括監 依田 英樹

県立学校部副参事 出井 孝一

5 概要

(1) 依田高校改革統括監 挨拶

(2) 意見交換会

(依田 高校改革統括監)

進行をさせていただきます。先ほど司会からありましたとおり、皆様の自己紹介に合わせまして、お一人お一人のお考えについて、まずは簡潔にお話をいただいて、そのお話を元にまた意見交換を展開していこうと思っておりますので、よろしくお願いします。

(A)

本日はこのような会を設けていただきまして、本当にありがとうございます。男子校3年の保護者でございます。今、息子は3年生ということで、二年半、男子校で元気に過ごしていて、そういう姿も含めてですね、お話させていただきます。

私は、生まれも育ちも埼玉県でございまして、共学の学校に在籍しておりました。私は、トラウマなんです、男子がどうしてもですね、頼りなく映ってしまった高校3年間なんです。どうして男子はっていうことがありまして、また就職氷河期世代ということもありまして、その後も男子も非常にですね、苦しそうだったんですね。

私はそんな、男子のように育てたくないっていう思いで、どうしたらいいんだろうっていうところから始まりました。私はパートで大宮のあるところで、働いてたんですけども、皆さん、先輩ママたちが私立中学校の話すごい盛り上がってたんですね。ただ、経済的に無理なので、どうしても、また生まれてきた息子も同じように育ってしまうんじゃないかなっていう本当に悲しい思いをしたんですね。

そんな中、こちらの中学受験をしない選択っていう本を目にしました。私は、これを開いた時に、本当に今でも思い出すんですけども、息子も助かるというか、もっと幸せになるかもしれないっていうヒントがたくさん書かれていました。

その中にですね、県立浦和高校と県立浦和第一女子高校の記事がありました。これを見て、自分が通っていた共学校とどう違うんだろうということで、研究し始めたところから始まり、小学生講座を男子校が実施されていて、息子を連れて行ったところ、息子は本当に興味を持ってとても楽しくて、僕もあの、〇〇高校生みたいになりたいっていうことで、一年生の時から、憧れて頑張って入学したって感じなんですけれども、簡潔に申し上げますと、男子高校っていうのは女子の目がないので非常にですね、自分らしく全てのことに熱中できるという環境が揃っているということです。女子がいると、斜めに構えてしまうんですね。男の子っていうのは。なんです、オタク的なものも発揮できますし、いろいろなイベント、文化祭とかも男だけの熱量でできるし、あとは、マラソンとかああいったものも、女性がいると

肉体的には不可能なものなのですが、男だけだから、十分、ギリギリの体力、精神力までもっていった行事も開催できるということで、そこで学力ではなくて、結果的には人間形成が、受験だけではない人間形成ができて、全てのことに全力でできるという力がついてくるのかなってというのが実感です。なので、私は大学がどうか、どこの大学に行きたいとか、そういった羅列、〇〇大学に何人いたとか、そういったことは本当に全く興味がなくて、その後の力、強く生きていけるっていう土台ですね。そういった魂が育てられる部分で、息子を通っている男子校を維持していただいて、本当に感謝しております。埼玉県文化遺産だと思っておりますので、引き続きですね、これからもぜひ残していただければと思っております。よろしくお願いいたします。

(B)

本日はありがとうございます。都内の男子校の保護者です。私は男女共同参画を望んでいる者です。男女別学校は男女共同参画に有意義であり、特に県北では重要性が高いものです。この問題では浦和高校の話題は多く出るようですが、女子校はあまり取り上げられません。女子校関係者の大多数が共学化反対にもかかわらずです。これはメディアによる女性軽視であり差別です。これを行政が黙認するのであれば同罪だと思います。また、苦情処理委員による勧告書は国連の女子差別撤廃条約の和訳を変えて使っていたと新聞報道で知りました。このように共学化は理念も進め方も間違っていますので、措置報告書の撤回を求めます。

(C)

うちの子は中学生でして、今回、(冒頭の挨拶が高校生の保護者向けだったことを踏まえ)中学生と高校生の保護者対象という形になっていたかと思います。私自身は埼玉県立の男子校の出身です。よろしくお願いいたします。本日、いろいろ教えていただきたいことですか、私なりの考えとか、いろいろあるんですけども、一番に申し上げたいことはということですね、まず男女共同参画の視点に立った教育について、今日のテーマ4点の一つだと思うんですけども、ここで言う男女共同参画ってなんですかっていうのを確認したい。具体的にはですね、高校生が高校に在学中、まあ男女が一緒にいた方がいいねってことを言っているのか、それとも、大人になってから卒業後に困るよねという話をしたいのか、どちらなのかなってというのが分からなかったです。

分からなかったので、両方を考えてみたんですけども、在学中の話だとすると、同じ通学圏内、ここから通える範囲で、教育水準、例えば偏差値とかが同じぐらいで、教育内容が同じ、例えば普通科とか、その中で男子校、女子校、共学校の選択肢が確保されている前提において、いわゆる公平性とか代替性っていうんですかね、そういうことが確保されている前提においては、男女共同参画と別学との関連性っていうのは、無いのかなというふうには思っています。例えば、商業施設とかビルの中でもいいんですけども、男子トイレと女子トイレがありますと。で、1、3、5階が女子トイレ、2、4、6階が男子トイレだとして、同じ階に男子と女子トイレないのはけしからんという人もいられるかもしれませんが、世間一般的には許容されている。そういうのが、代替性がある、公平性が確保されている、そういう観点なのかなと思っています。

逆に言えば通学圏内で代替性がない教育内容、特長的な教育をしている県立の別学校、そういったようなところは、共学化を念頭に置くのもやぶさかじゃないのかなと私は思っています。

先ほどお話があった県教育委員会の報告書の中で、男女共同参画社会の中において、高校3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があるという記述がありますが、少し私懸念してるところで、県内に別学の私立の高校ですとか、県外には国立の別学校もあります。そこに通ってる生徒とか卒業生、私も含めて、意義のない学校生活だったのかということになりませんか。そういうことを懸念しています。

それからもう一点、大人になってからの話だったとした場合なんですけれども、別学校の出身か、共学校の出身かで、男女共同参画社会、いわゆる大人社会に影響を及ぼすってことはありえないんじゃないかと思っています。もし、影響があるとしたら県内の別学も私立高校が10校ありますけども、卒業したら男女共同参画社会に悪影響ということになってしまいます。私立の学校法人も公の公教育ですので、子供の立場からすると、県立も私立も関係ないわけですね。さらにはですね、東京都内に行きますと、私立の別学校は100校ぐらいあります。東京都内の学校に通ってる方も埼玉県内にいるかと思う。私立を無視していいのか、ちょっとナンセンスな話かなと思っています。国立の別学校も東京都内にありますよね。これは男女共同参画社会に悪影響なんですかということからすると、男女共同参画というのと別学、共学というのは無関係なんじゃないのかなというふうに思いました。

今ここで検討されるのは埼玉県立高校が管轄だからってことだけ、ということだからだと思うんですけども、子供の立場で考えれば、私立も国立も関係ないわけで、埼玉県内も東京都内も関係ないわけで、もうちょっと荒川の向こう側を見ていただきたい。もうちょっと広い目で見ていただいたら、自ずと答えはでるんじゃないかと思います。

さらに広い視野で、海外も見ていただきたいと思う。私は、仕事で海外に住んでいたことがあるんですけど、調べたところ、イギリスの高校の約2割が別学だそうです。イギリスっていうのは男女共同参画後進国なのかということ、いわゆるジェンダーギャップランキングでは、イギリスはトップクラスで、日本は主要国の中で最下位クラスとなっている。相関関係があるのかということ、ないような気がします。先ほどの東京の話をもても、ジェンダーギャップ指数ランキングでは、東京は教育分野で上位7位ぐらいだったと思います。埼玉県は42位ぐらいです。では、東京を見習うとしたら、別学校をもっと増やした方がジェンダーランキングが上がるんじゃないかという話になってくるので、そこって相関関係があるんでしょうかということところを一番知りたいなというふうに思います。ちょっと長くなってしまいました、すみません。以上とさせていただきます。

(D)

お願いします。私自身は、田舎の方ですね、県立の共学高校出身で、息子が男子校の2年生に今在籍しています。

私は、この春にですね、息子の高校の文化祭に行き、すごく盛り上がっていましたが、ちょっと驚いたのは、皆Tシャツをいろいろクラスで作っててですね、「漢」で「おとこ」という文字が入っていたり、「共学反対」みたいな文字が入っていたりして、なんかセンセーショナルなTシャツをみんな着て普通に過ごしてるので、大丈夫かなと思って。息子の代弁をすると、息子は別学維持です。母校を残してほしいということなのかなと思うんですけど、私の母校は田舎の方なので、少子化の煽りで、実はもう消滅ギリギリのところにいます。対極的なところで、少子化も考えてですね、学校をいろいろ再編するっていうのも、県教育委員会としては必要かなと思っています。

ちょっと、息子の高校の文化祭に行って、違和感を覚えたのは、その高校は夜間は共学なんです。女子生徒が通ってるにもかかわらず、「漢」とかいうTシャツとか「共学反対」

Tシャツを着て、息子は昼の方なのですが、昼の方がマジョリティなのに、もう少し〇〇高校生、想像力持ってほしいというのが正直思いました。それもあって、私ちょっと今回出ようと思ったのが、一つあります。

それからですね、私はこの近くに住んでるんですけども、学区で言うと□□中というところに息子は通ったんですけど、実は□□中から一番近いのが女子校なんですね。やはり一番近くの学校に通えないと不思議な感じで、我が家のややこしいのはですね、妻は女子校出身です。妻も別学維持派で家庭内で私だけマイノリティになってるという感じなんですけども、埼玉県は長く住んでいるんですけども、20、30年ぐらい前は、偏差値が下のランクの方にも男子校、女子校がありましたよね。少子化の中でこれがなくなってなぜか不思議にトップ校だけ、別学になって、ちょっと不思議さが私には実は非常にあります。

それが埼玉の不思議さなんですけど、福島や宮城も共学になったようで、特に問題が起きているので、共学になってもそこまで問題ではないのではないかなと思っています。

憲法の条文がですね、憲法14条で全ての国民は法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分とあって、人種、信条、性別と3つ目に性別が来るんですね。そこにおいて差別されないと書いてあります。人種差別は駄目ですね。黒人学校、白人学校作っちゃ駄目ですし、信条、キリスト教学校、仏教学校で分けちゃ駄目ですし、性別も基本的には分けてはいけないと思うんですよね。ただ私は絶対反対とは言いません。きちんとした理由が説明できれば、私は別学も可能かと思います。ですので、浦和第一女子高校の女子のみの夜間部で、中学校時代に男性とトラブルがあって、男性にアレルギーとか恐怖感がある方がいらっやって、そういう方のシェルターとして夜間みたいな形であるのであれば、おそらく存在する理由があると思うんですけども、しかし、そういう理由があればですね、私も納得できるかなと思います。伝統と言い始めると、戦前の男女不平等が温存されているような気もしまして、納得できないところがあります。今のところあの文化祭行った感覚の違和感で、私は共学に少子化もあわせて再編された方がいいかと思います。以上です。すみません、長くなりました。

(E)

今日は出席させていただきありがとうございます。子供は、共学校に通う2年生です。

私自身も共学の高校に通っていきまして、楽しく問題なく過ごしておりました。私自身は別学賛成の立場から参加させていただいています。勉強不足で、男女共同参画のという観点から、この話が進められている事を知りませんでした。少子化や財政困難が理由だと思っていました。私の家の近くの高校も合併されたりしていますので、そういう観点から合併や、共学化が進められていると思っていました。今、少子化は深刻な問題です。政府の対応も遅れていて、一向にそれが止まっていない状況です。その中で、子供一人一人、今生きてる一人一人を大事にしていきたいという思いがあります。あえて選択肢を減らさないでほしいと思っています。共学化にまとめるのではなくて。高校だけの話ではありませんが、10代の子供の死因の原因の一位が自殺です。そんなところから、もう既に教育という現場が成り立っていないのではないかと感じています。ぜひ、一人一人の子供の意見も大事にさせていただき、選択肢を減らさないでほしいと思います。よろしくお願いいたします。

(F)

今回、暑い中、また何回もこういう意見交換会を局の方、開いてくださってありがとうございます。

私、息子が二人おりまして、今次男が男子校2年生に在学しています。長男も男子校でした。二人とも男子校なんですけれども、男子校に入ったアプローチが違いまして。長男はとにかく家から近いのがたまたま男子校だったから行ってみた、次男は中学生の時に、ボス格の女子に睨まれてしまって女子が怖くなっちゃったらしく、女子を一生避けられるとは思ってないけど、高校は男子だけで行きたいんだってということで二人とも男子校に行きました。違うアプローチで行ったんですけれども、二人とも大満足で伸び伸びしてるんですね。行ってよかったというのがあります。

今回一律共学化っていうことが出てきて、子供たちもちろん反対してますし、丁寧に生徒の意見とかも聞いてくださっているんで、署名が約34,000件集まったり、こういう会、いろいろな高校で聞き取りをしてくださって、別学を維持してほしいっていう声から一定のニーズはあることは実感されてると思うんです。なので、先ほどの方もおっしゃってましたけど、埼玉は共学もあるし別学も選べる。別学がたくさんあるわけじゃなくて、県立高校137校あるうちのたった12校で1割にも満たないですね。選べる自由を大事にしてほしいって思います。

ほかの県の話が今出ましたけれども、宮城と福島が2006年、2000年頃から共学化してまして、宮城県なんですけれども、調べたところ、進学校とかが女子に押されちゃって、男子が少ないとか、進学率の低下とか、進学校だけじゃなくて女子校を共学にすると、男子が入りづらくて、部活とかでも非常に困ってる、施設もなくて、お金もかかるっていう問題が出てるんで、そののところがよく見ていただいて、埼玉県は男女共学もあるし、別学もある、選べるっていう理由も大事ですし、ほかの県がみんな共学化してる中、埼玉県の無形文化遺産、レガシーぐらいに考えて残してほしいと思ってます。

措置報告書の撤回は難しいと思うんですが、出ちゃってるんで、是正といいますか、丁寧な聞き取りをした結果、別学のニーズが高かったことが分かったので、一定を維持するっていう追記みたいなのをしてほしいと思ってます。以上です。

(G)

お願いします。子供が今中学3年生と1年生がいます。3年生の方がお姉ちゃん、1年生が弟です。

共学化に関しまして、自分は皆さんのような高尚なことは言えないんですけど、単純に言えば、今、この間、ずっと話にでてくるのが、男子校、女子校のいわゆる優秀校ばっかりの話になってしまっている中で、そうじゃない人から見れば、ただのブランド力の維持じゃないかっていう印象を正直受けざるを得ない。自分たちのネームバリューの維持みたいだけで、別学維持をやるのであれば、それは教育としてどうなんだいという思いもあって今回参加させていただきました。

正直言ってしまうと、埼玉県は高校に男女別学がありまして、全国で見れば、別学があるという都道府県というのはむしろ少数派となっています。30を超える高校が公立に関しましては共学が進んでいる中で、お上が言ったからやれっていう考え方はちょっと埼玉県の風土としてはそぐわないと思います。畑知事の頃から自主独立みたいな要素もありますので、そういう風土で頑張っていくんだっていう気概があつての別学の考え方としては、埼玉県の県民性としては非常に優秀なのかなと思うんですが、一方で具体的な名前を出してしまいますと、松山高校、こちらなんかは男子校ではあるんですが、ここ数年、定員割れを起こしております。偏差値教育じゃないんでしょうけど、偏差値も25年前、30年前ぐらいの頃から正直下がりました。今の松山高校は普通科が定員割れして、理数科に落ちた方が第

二志望で普通科に行くということで、受け皿になっているという状況で、要はネームバリューを維持するために、高校自体が没落していくってということが目の前で起こっているという現実があります。一方で熊谷高校も来年度は募集人員を減らすということで、レベルを維持するためには定員を減らしてでもやっていくってということがはたして、県の教育としてレベルを維持するっていうのは大事ですけど、そこまでしてやっていかなきゃいけないところなのかと、公立高校がそこまでしてやっていかなきゃいけないのかという、というところまで差し掛かっているのではないのかなと一方では思っております。

また、これは申し訳ないんですけど、職場の人に松山高校や熊谷高校の方もいましたので、自分は共学だったんですけど、男子校の出身の方に聞いてみたんですが、正直感じたところでは行って楽しかったと言っていました。一方で話を聞いてみると、行くまでの経緯としてはその当時の学力に見合ったところが丁度そこだったと。頑張って受検して行ったところがそこだったと。たまたま行ったところが男子校だったと。行って楽しかったというコメントは聞いたんですけど、一方でそれが共学だったら行かなかったって聞いたら、そうでもなかったなという話をしていた。高校を卒業して大学行って社会出た時、社会の仕組みというのは基本的には男性と女性、いろいろな性がありますけど、ざっくりこの場で言うなればその男性と女性っていう中で、様々な性別の方たちが共に共存してやっていく社会を作っていくというのが本来あるべき社会の中で、高校生も教育が終わって、学校も社会の一員なんだろうと思った時に、共学というのはその社会の一部として提供する学ぶ場としては、必要なのかなというところでは、今、学力のあるところは別学校が多いです。大宮高校は共学だが、要は実験場になっちゃうのかもしれないですけど、共学でも埼玉はちゃんと実力のある学校がある。そういうのをちゃんと今後は示していかなければ、傍から見れば遅れている県って思われてしまうリスクも背負うし、そういうのを考えてた時に、ここは一步進んで踏み込むことを考えていくところじゃないのかなというところで、今回あの参加をさせていただきました。よろしくお願いいたします。

(H)

男子校の2年、公立中学校1年生の保護者です。

私の息子が高校に入学する前後から共学化問題については騒がれています。共学化反対の声というの、多く届いていて、埼玉県の方にも届いていると思います。皆現役の高校生さんとか、保護者さんとか、その他の方たちが反対意見を推し進め、意見を言っているんですけども、ちょっと民意を反映していないような政策をしているんじゃないかというふうに私は疑問を感じています。

自分自身は別学の維持を求めています。うちの息子も男子校に入りたいくて、一生懸命勉強して高校に入って、今世界一の青春を送っています。本当に男子校に入ってよかったって言って、毎日部活をやって朝から晩まで勉強して、満足した顔で帰ってきて、お風呂に入らずに寝ています。それでも最高の青春だって言っております。いろいろな意見もありつつも、私はやはり伝統のある素晴らしい学校は、埼玉県の財産だと思っています。歴史だと思っています。これを壊すことを強く反対します。

今日は、県教育委員会と県知事さんたちは、共学化について推し進めているようなスタンスをどうしても私は感じてしまうのですが、県民が納得できる説明っていうのがやっぱりないなって思っていて、国立の高校、私立もそうですけれども、実際に別学の高校はあって認められています。憲法違反でも条例違反でもありません。それは、前回の資料とかを見てみれば分かると思います。なので、例えば、上皇后の美智子さまとか、皇后の雅子さま

とかは女子学校出身です。その学びとか、彼女たちの素晴らしい生き方とかを否定するような県政にはなってもらいたくないなとは思っています。

民意を無視して、県政や政策を強行すると信用問題に発展します。埼玉県は今いろいろな問題が起こっています。外国人問題とか、八潮の事故のこととか、いろいろ解決しなければいけない問題はいっぱいあるんですけれども、それはどうなのって、多分埼玉県民の方、今回のこの共学化問題に関しても、ここまでの反対意見が、もちろん賛成の意見も出ていますけれど、出ているのにもかかわらず、知事もすっきりしない発言をしていたりだとかっていう形で、ちょっと、私たち県民に対して分かりやすい形で説明していただきたいなとは思っています。

自分の息子もちなみに男子校を目指して、今一生懸命頑張っているんで、私の息子たちと、やっぱり別学を、行きたい子供たちの未来を潰さないでいただきたいと思います。

措置報告書の方も読ませていただきましたけれども、私もちょっとどうかなと思っています。撤回できれば撤回、又は是正を求めさせていただきます。あと、可能であれば、県知事や県教育委員会の教育長とかとも面会できるチャンスを私たちに与えてください。

同じ学びとは言いますけれども、男女でやっぱり差別じゃなくて区別、特性に合わせたあの教育とか指導というのは必要になると思っています。共学に行きたい人は共学に行く選択をする、男子校に行きたい人は男子校に行く選択をする、女子校に行く人は女子校に行く選択をするっていうのが埼玉県の魅力だとは思っていますので、私はそこを強く訴えたいと思います。

(I)

私自身は共学の出身です。

男子校に行った息子と女子校に行った娘とまだ中学生の子供がおります。いろいろな経験もしくは見方から考えると、やっぱり別学の存続に賛成します。埼玉県独自で特色を出して工夫して行って長年さしたる問題のないことに、なぜ急に外部から文句を言われ、一方的に変えられる方向に従わなければいけないのか。それがずっと埼玉に住んでいる自分の実感です。

いろいろなご意見、皆さんと被りますので、自分の話から考えると、なぜ女子が女子校に行ってはいけないのか、なぜ男子が男子校に行ってはいけないのかって。この話の発端の一つに、なぜ女子が男子校に行ってはいけないのかという一通の手紙ですかね、があると聞いています。その少数意見をこんなにも重く見てくださるなら、私たちのこのなぜ女子は女子校に行ってはいけないのか、なぜ男子は男子校に行ってはいけないのか、この思いも同じぐらい重く取っていただきたいです。

もう一つ経験があります。自分は共学に行って失敗したという面があります。私になっちゃいますけど、やはり思春期の成長過程において男子は時に脅威です。そして学校というのは結構、目が届きません。学校というのは、そういう男女の性被害の場所にも、あの頃デートDVとかそんな言葉がなかったですけど、そういうこともあります。自分が中学の時に、学校の男子に被害を受けたので、ぜひそのための女子校に行きたいと。ただ勉強したいけど、相手が学校にいるから学校には行けない、不登校という言葉もない時代ですけど、そういうときに埼玉には鴻巣女子高校とか久喜高校とか、そういうトップ校ではない女子校という、そういう選択肢がありました。これ、ごめんなさい、私の話ではないのですが、あとから聞いたものなんですけども、女子校に行って、ここを卒業して大学も出て社会人になって結婚して子供も産みました。リハビリできたんです。親にも言えなかったと言ってました。心配

するから。教員にも言えなかったと言ってました。ただ一人で抱え込んで。だから私はこの話を聞いたのはもうずっとずっと後の話です。そういう経験をした子もいるということです。

なんかいくつか話がありましたけども、こんな問題は表に出せるもんじゃないと思います。問題はないとおっしゃいますが、問題を出さないようにしてただけだと思います。ただもちろん人数は分かりません。こんなのは少数に過ぎないだろうと言われたらそうなのかもしれません。でも、そういう少数もいる、いろいろな子がいろいろな理由で女子校、男子校、そして共学を選ぶ子もいると思います。例えば、女子校に行ってる子達がこんな女子校はいやだとか内部分裂を起こして倍率が下がってというんだったら、私も、それが子供たちにおまかせしますけど、倍率が出ている、つまり行きたい子たちがいる、そういう子たちのことと、それから偏差値割れをしているところ、ここはまた別の話だとも思います。でも男子だって性別のためリハビリが必要な子もいるでしょうし、とにかくいろいろな子のために開かれた公立高校であってほしいと思ってます。

(J)

今日はよろしくお願いします。

うちには今息子が二人いまして、二人とも男子校の方に通っています。実は私も、女子校の出身でして、家族四人なんですけど、主人だけが共学。そんな、お宅がどこかにあったようだと思うんですけど、うちの主人は一人共学校、大賛成ということで、まあ、3:1に分かれている状況です。うちの息子も男子校に行ってる保護者の方が言っていたように、とっても楽しく行っています。

元々、長男が男子校に行きたいってということで、私が、女子校の話もしたってことも、影響があったかもしれませんが、男子校に見学に行って、とても楽しかったと、その姿を見てたからなのか、お兄ちゃんと同じところに行きたいと、そんな感じで二人とも今お世話になっています。

多分この話、一番最初の発端が、女子生徒が男子校に行けないのがおかしいんじゃないか、そんなことだったと思うんですけども、そもそもこの女子生徒がなぜその男子高校に行きたかったのかっていうところ、その理由が私には読み取れなかったというか分からなかったもので、男子校に行きたいのか、要は女の子なんだけれども心が男の子で男子校に行きたかったのか、そもそもその学校の校風がよくて行きたかったのか、これによって男女共同という考え方が少し変わってくるのかなっていうふうに思います。あの本当にその女の子が男子として男子校に行きたかったとするならば、共学にしたことでこの問題が解決できるのかなっていうところに私はちょっと個人的に疑問を持っています。

それから、熊谷高校、熊谷女子高校も来年、定員が280人になるということで1クラス分減ると、先日新聞記事で見ました。いずれ共学になってしまうのではないかと心配しています。先ほど、ブランド力の維持だけじゃないとか、いろいろなご意見があって、仕方がないかなと思うんですけども、私立は別学、まあいいんだけど、県立はやっぱ公なので、別学駄目じゃないのっていう意見っていうのは、それはどうなのかなっていう、なんで県立だったらだめなんですかっていうところが、ちょっと私の疑問であるのと、あと、たくさんの方がおっしゃってましたけど、男女共同ということを使うのであれば、選択肢があってもいいのではないかなというふうに考えてます。前の方もおっしゃってましたけれども、男子校に来たければ、男子校に行けばいいし、共学がよければ共学に行けばいいということで、選択肢をたくさん与えることで、救われる生徒だとか、子供たちがたくさんいてですね、充実した高校生活が送れるのではないかなというふうに考えてます。

ぜひ県教育委員会の方におかれましては、男女共学とか別学だとかってということよりも、どうしたら子供たちが3年間貴重な高校生活を楽しく過ごせるのかってところもぜひ念頭に入れていただいて、この問題について考えていただければと思いますので、よろしくお願いします。

(K)

本日はこのような場に参加させていただき、ありがとうございます。

私は埼玉県外の高校に通っていましたが、息子二人いるのですが、上の子は共学校出身です。中学受験をして中高一貫で通いました。下の子は埼玉県にある私立の高校に今通っておりまして、こちらも中学受験をして中高一貫で通っております。

息子それぞれの話を聞き、男の子は20名いるかいないかっていうような学校でほぼほぼ女子校です。その中で、男子20人の中で、本当に団結力は今すごくて、高校卒業した現在でも、何かあると男子の集まりがあり、男子の中で相談をする。女の子っていうほどではなく、ただ女の子のすごく多い部分、嫌な面を高めてしまってる、だから、ちょっと女子は怖い、そのような意見も息子から聞いております。

下の子は、中学校に見学に行った時に女の子が怖い、それ一言で私立の男子校を受験することを決めました。地元の中学に進むってこともあったのですが、やはり女子が怖いということで、男子校を選択したっていう次第です。

その中で、男子校を選ぶに当たって、私自身が共学校出身だったので男女一緒にいなくていいのかなっていう思いもあったのですが、先生方の話を聞いて、それぞれ男子女子の中学校、高校の活動の仕方、やはり思春期っていう難しい時期で、やはり育て方っていうことも親も大変ですっていうところで、先生方がそちらの方は学校の方でカバーして、それぞれの特性に合ったことを学校で指導をしていきます、ということで、やはり男の子っていうと、男子校に行かれる保護者の方も多いとこの場で思いましたが、育てるのが難しいんですね。なのでその部分を、先生方がサポートしてくださったので、今高校二年生ですが、本当に息子は、のびのびと育てております。こちらの男女共同参画っていうことを理由で、共学化を進めてしまう、もうほぼほぼ強制的な感じで押し進めてるような気もするんですが、なんか違うような気がするっていうことも私は一つあります。だから、子供の人数が本当に減っております、高校の統廃合もありますし、定員割れしてる高校もあり、また定員を減らしていくという高校もある。その中で男女別学をこのまま残していくのもどうなのかなっていう気持ちも正直あります。ですので、急にこの年から全て共学化しますっていうのではなく、やはり子供たちの意見も組みながら、保護者の意見も組みながら、少しずつ周りの、このようなところは潰せるかな、このようなことは進めていけるかな、そのような考えを持ちながら進めていただきたいなと思っております。以上です。本日はよろしくお願いします。

(L)

息子は男子校の3年生、皆様には息子が大変お世話にもなってると思いますけども、何度かこういった会に息子に参加させていただいております。今日はちょっと初めて私が参加させていただきます。

私は皆さんとちょっと違う角度の話になっちゃうんですけども、息子が何度かこうお伺いして話をしていますので、中身自体よりも、先日の8月6日の高校生の会でも出てたと思うんですけども、共学が良い別学が良いというお話よりも、今回のお話の進め方ですね。

もうかなり強引に来るっていう進め方に対して、本当に別学を全て否定して無くす必要があるのかというところの意見に対する県教育委員会の中での議論の進め方に対して、ちょっと疑問があるんですね。

昨年からいろいろな意見交換会が開催されていて、その資料を見てきたんですけども、一番多いのは、要望として、今まで共学化を進めるという方向になっていく過程の中で、いろいろな根拠になるお話だったりとかデータだったりとか、説明が理論的なところっていうのがちょっと欠けているというか、ほとんど出てこないっていうお話がいろいろな議事録に出てくるんです。大体回答されているのは男女共同参画社会の中で男女が協力していくということに意義があるというのが、その一本がずっと出てくるんですよ。それが、言いたいことなんだと思うんですけども、その一本が出てるだけで、生徒だったり、今までの保護者だったりの質問に対する回答がそれしか出てこないの、ほとんど質問と回答がちぐはぐで合っていない状態なんですよ。先日は8月6日の際にもいろいろな生徒からいろいろな要望ですとか、意見があったと思うんですけども、あとお願いみたいなのがあったと思うんですけど、そういったものに、皆さんは別学で学ぶことにも意義があってニーズがあるということも、理解されているということと、共学でも別学でも同等の教育がもう現時点でできていると、今後も続くようであればできるということですので、そういったことを踏まえている状態でのこういった結果になるということの、進め方がどうしても結果ありきで進めてるんじゃないかってみんなには見えてるんですよ。そういったものに対する根拠ですとか理論ですとかデータをちゃんと示してほしいです。学生だったり県民が、こうだったらしょうがないよねっていうような、ストーリーになるようにちゃんと説明をしていただけないと、県民が納得しないと思うんですね。なんだか分からないけど、強引に押し切られたという印象だけが残るという気がするんですね。ですので、特に生徒ですね。8月6日の生徒は、学生ですので、しっかりあの回答してあげてほしいなと思います。

あと、共学化勧告に関する協議、審議を合計3回されてると思うんですけど、その議事録も全部読んできたんですけども、その中で議論されているのが、別学の良いところはどこというところで、共学の良いところはどこというところで、という議論がほぼないんですよ。最初のところで、県教育委員会としてはもう平成14年度の時から共学化を推進することを方針としてますよっていうことが前提で会議が始まっちゃってるので、それに乗せて共学化の勧告に対する、回答をどうやって作っていかうかっていう、体裁を整えていくとか、てにをはですとか、この順番の方が分かりやすいよとか言う議論がされているだけなんですよ。ですので、本当の意味での別学、共学、どうして共学だけにしなきゃいけない理由というのが議論が県教育委員会の会議で全くされてない議事録だったんですけども、これだとやはり納得性がいかないですよ。議論をされてない、理論もちゃんとしてないという状態ですので、そういうことからやっぱり納得いくようにちゃんと説明ができるようになっていないといけないと思うんですね。これ多分8月6日にも出てたと思うんです。同じような納得がいかないから要求が出るんだという話をされてた生徒さんがいると思うんですけども。そういったものがちゃんと分かるようにですね、理論が通るように説明をしていただきたいなと思います。

おそらくこの3回の会議以外にも勉強会をしてるみたいなフレーズが書いてあったんですけども、その勉強会に対する情報が全く分かりませんので、そういった勉強会のところの資料ですとか、内容っていうのは開示していただきたいなと思います。

あと、今回のこの7月から一連の意見交換会をされていると思いますけれども、この意見交換会で意見を皆さんが出したものを県教育委員会の方に伝えていただくんだと思うんです

けれども、それを伝えた結果、どういう会が開催されて、どういう議論がなされて、どういう結果になっていくのかっていう、意見を聞いただけでは意味がなくて、それをどうちゃんと県の中で話し合いをするんだっていうことが見えるような状態にさせていただきたいですね。その議事録のようなものを細かく見たいと思うんですけれども。先ほどお話の中に、どなたか、教育長ですとかそういった方と意見交換がしたいっていう話ですとか、知事さんとの意見交換がしたいという話が出てたと思うんですけれども、私もぜひそういった教育長さんですとか上の教育委員の方ですとか、そういった方々との話し合い、意見交換会というのを開催していただきたいなと思っております。県知事さんとか。以上です。長くなりすみません。

(M)

こんにちは。今日はこのような会に参加させていただき、ありがとうございます。

男子校の1年に息子がおりまして、弟がその近くの中学校に通っております。

私自身が県外の出身なので、県外の共学の高校、田舎というか高校に通っておりまして、大学は女子大でした。

正直私は、申し訳ないことに皆さんのように予習をしておりませんで、普段からそのことについていろいろ調べたりだとか、意見をしっかり持ったりだとかっていうことがあまりなくて、どちらの意見もあるだろうなというふうに、この件に関しては共学化に関してはどちらの意見もあるだろうな、どちらも良いことなんだろうなっていうふうにはちょっと思っていて、ただ、自分の息子が男子校を選んで入りましたので、男子校の利点というか、よかったところを、意見交換会でお伝えして、逆に共学が良いとおっしゃる方の意見を伺って、実際ここで語られたことがどのように生かされていったのかということを知っておきたいみたいなつもりで、すごくライトな感じで今日来てしまいました。

息子が男子校を選んだ理由ですが、元々別の男子校に行きたかったんですね。小学校の時からその別の男子校に行きたいと言ってたんですけども、その学校の地域の塾に通っているのがもう辛すぎて、電車はもう嫌だっていう理由で、近くの男子校を選んだんですね。たくさん選択肢のある中、別の男子校は遠すぎて嫌だ、じゃあ今の高校にするということで、結局男子校だったんですね。男子校を選びました。

男子校の保護者の方おっしゃっているように、伸び伸びと、身なりにも全然構いませんし、女子の目がないってこういうことなのかなみたいなのをすごくひしひしとを感じるんですけれども、私は今回皆さんの、ご意見を意見交換会で伺って、もし仮に共学化が進められてしまったとしても、それになってしまった経緯をちゃんと自分の肌で自分は参加して見ている中で進んだんだよっていうことを実感できれば、もしどういう結果になったとしても、まあ納得せざるを得ないかなというふうに思っています。

ただ、やはり一番は、子供の選択肢を残してあげてほしいということだけは思います。結局行くのは子供なので、子供が選べるところに、それがある。私は県外の田舎の共学の高校でしたけど、そんなに選択肢がないんですね。そんなたくさん選択してないので、どっちみちそこに行くんです。偏差値これくらいとなるとここに行くとなって、ほとんど決まっちゃっていて。埼玉県にいて、こんなに選択肢があるんだ、こんなたくさんの中から選べるんだっていうことを、素晴らしいことだっていうふうに思っているの、その選択肢の一つとして、そんな無理やり潰さなくてもいいんじゃないかと思います。男女共同参画とかという問題は抜きにして、すごくライトに残してもいいんじゃないかなというふうに思いました。

息子は、学校行ったら帰ってこないです。午後10時とかまで学校にいます。なんでそんなにいられるのかなって思うと、学校が開放されていて、そこで勉強しようが、寝よう

が、ゲームをやっている子もいるみたいなんですけども、なんで夜までいられるかっていうと、女子がいないからなんだよっていう、女子がいたら危ないじゃんねって。子供なりにそういうことをすごく考えていて、そういう自分の選択した学校で選択した生き方ができているっていうことを、大人たちが忘れないでいられたらなというふうに思っています。すみません。あまり本当にかっこいいことが何も言えなくて、ただ思いだけで来ているので、申し訳ないんですけれども、皆さんの意見をまた聞かせていただければと思いますので、よろしくお願いします。

(N)

うちは子供は、中学生に通ってる男子です。私は県立の共学校出身で、夫が男子校出身で、家族全体女子は別学維持、共学化反対っていう立場を取ってます。子供にもこういう意見交換会があるから、行ってみるといいよっていう話はしてみたんですけど、そうそう変わんないでしょうっていうので、参加はしなかったっていう感じですね。実際、今開催予定とか見ると、中学生参加の会が一回中止になったりとか、やっぱり現役の中学生にとっては急に変わる訳がないと思ってるところがあるのかなと。変わる時には変わるから、こういう時には意見を言うのは大事だよっていうのは話しております。

夫は、男子校に通ってたんですけど本人に言わせると何も考えてなかったようで、別学が良いとか共学が良いとかじゃなくて、偏差値的に合うところがそこだったからそこに行ったということでした。私は共学に行ったんですけど、ちょっと変わってて、私が通ってた時、男子クラスがあったんです。共学っていう中であって、男子クラス二つあって、そこに男子が入られるんですよ。1年生の時は全体で男女一緒だったんですけど、2年、3年の時に男子クラスが突然発生されて男子たちが戦々恐々と共学に来たのに男子クラスとはみたいなそういう感じになってて、そういった意味では、選んで共学に来たはずなのに、男子クラスに入れられたっていう、そういう人たちもいるっていう感じですかね。

中学校ぐらいまでっていうのは、学区が決まってて、基本的に家から近いところに通うっていうのが義務教育の場合はそうなんだと思うんですけど、高校になって自分の好きなところに通うことができるようになって、地域から飛び出して社会が広がるんですよ。そういう時に選んで入ってくるって、それなりにすごく意味があることで、あえて別学を選ぶっていうのはそこに多分、夫の場合は、イレギュラー中のイレギュラーだと思うんですけど、なんとなく入っちゃったので。やっぱり選んで入ってくるっていう子が多いということは、そこにちゃんと意味があるので、その意味をなくしてほしくないなっていうのは感じています。

あと、気になったんで調べてみたんですけど、進学実績をいろいろな高校が出してて国公立大学の合格者数のうち、浪人の割合を見てみると、浦和高校って浪人率がすごい高いんですよ。半分近くが浪人です。一方で、浦和第一女子高校だと浪人率13.8%ぐらいで、下がるんですね。さらにびっくりしたのが共学になると、市立浦和高校で浪人率が7.1%で下がるんですよ。これなんだろうなっていう。

別学と共学に関して言えば、共学を押す必要は、無理には埼玉県に関してはないかなと。同じ京浜東北線上に大宮高校もあるし、浦和高校もあるし、浦和第一女子高校もあるし、市立浦和高校もあるし。そこで共学も別学も両方あるわけです。その中で選べる行きたい方に行けるっていうのはやっぱり機会均等という意味では残しておいていただきたい。

男女共同参画もそうなんですけど、男女共同参画って男子と女子って、こういう属性でこう一生懸命合わせようとしてくるんですけど、私はその前に個人だと思ってるんですよ、

私は個人として尊重されなければ相手を尊重することは絶対にできないので、ほかの方も何人かの方おっしゃられてたんですけど、ほかの性別の目がないことで伸び伸びできる。男子と女子を同じパッケージのところに置いたときに起こることってというのは、男子に対して女子は一步引けなんですよ。大体出てくるのは。学校の先生からして。小学校なんか特に校長先生の男性率が異常に高いですよ。すごく力がある女の先生とかいてもなぜか管理職にはいかないんですよ。それはもちろん、女性の方にいろいろな家事育児の比重が強いとか、いろいろなことがあると思うんですけど、その人の能力で見れてないからこそ起きてることだと思うんですよ。そういった意味では、なんでも一緒にして、ジェンダーの不平等さみたいなのを内在させていくぐらいだったら、別にしておいて、それぞれが自分の能力をフルに生かしきれた方がプラスになるんじゃないかと思います。あと子供を育ててて思ったのが、やりたいってのを否定しないのはもちろん大事なんですけど、子供にとっての嫌っていうことを絶対に否定しないってのはすごく大事なことで、別学に関して、共学が嫌だっていう明確な子が確実にいるんですよ。そういう子のために、共学大事だからね、これ議事録とかでもちょいちょい流れてくるんですけど、一緒にいることが大事だからね、お互いに協力するのが大事だからねって言って押し込むんじゃないくて、嫌っていうのをちゃんと聞いてあげないと、多分その子が成長してきた時に、今度はほかの人の嫌を否定するっていうことになってしまうのではないかなって感じがしています。

社会に出たときに困るということに関して言えば、別学だろうと彼女、彼氏を作る子は作りますし、共学に行っても彼女、彼氏を作れない子は絶対にいます。これは絶対です。それはもうその子自身の資質なので、パッケージを入り口とか学校とか別にしてしまったからその出会いがなかったです、悔しいですとかっていうのはありえません。

あとは、今日のこの意見交換会とかが、一応皆さんの意見を聞きましたよ、方針はもう変わらないけど、でも基本変わらないにはしても、一応ちゃんとこういう場を設けました、聞きましたっていうアリバイのために使われないことをとにかく望みます。

私個人としては、伝統があるから別学を維持してくれという意味では今回は参加していません。伝統関係ないです。その子にとって必要だから、その学校があり続ける以上、そこを潰してしまっはいけないっていう立場を取ります。以上です。

(O)

子供が今、共学校に1時間かけて通っています。今回、共学化推進ということで、子供の選択肢ですね、高校を選ぶ際に自分がどこの方向に行きたいのか、例えば男子校に行きたい、男子校で男子の異性の目を気にせずに勉強したい。例えば、女子校に行って、女子らしさ、個人の方を磨きながら社会に向けて社会でも活躍できる女性になりたいとか、そういった子供が選択できる幅を縮めることはしない方がいいのではないかなというふうに考えて、今日は参りました。今回提案したいなと思ってるのは、県教育委員会が発表したように、主体的に共学化を推進していくという部分に関しましては、公的機関が発表している、県教育委員会が発表している中では多分引き下がれないと思うんですけども、ここは今一度立ち止まって再検討してみる必要があるんじゃないかというふうに考えております。

これは当然、各説明会でこの前回のですね、以前から続いている中での討論会におきまして、県教育委員会の方から出ているのは、少子化の流れは止められないと、その中で、新設の男女別学は難しいという形で発表されてると思うんですけども、当然、少子化の流れは止められないと、なおかつ、学校の統廃合も止められないと。そういった中で、今回発表した後にですね、公立高校の併願制導入とかですね、新たな子供の進学先を選ぶ、進学を勉強す

るための場がいろいろ変わってくるという形になってきてます。なので、子供が例えば共学に行きたいのか通信に行きたいのか、男子校、女子校に行きたいのか、それをですね、選べる幅をですね、ぜひ残していただくという形で考えていただければと思っております。

今回、別学廃止を進めている中でですね、少子化の流れの中で統廃合は避けられないという発言が県教育委員会の方から出てると思うんですけども、これは我々が結局メディアから聞いている情報だけなので、実際どうなるか分からないんですが、多分これはあるんでしょう。その中で、もし男子校、女子校を残すのであれば、特に今ある埼玉県男子校、女子校というのは、すごくバランスよく各地区に配置されてるわけです。例えば県南、西の方、あと北を含めても、各主要の昔の旧市政の主力の場所に、男子校、女子校が配置されていると、それを今後全て廃止してしまうということは、男子校、女子校のその良さですね、今回教育という部分では特色のある学校づくりを進めていくという教育方針があると思うんですけども、それを一つなくしてしまうんじゃないかと考えています。この少子化が原因で、男子校、女子校がなくなってしまうものであれば、例えば、統廃合で新しく作るだけではなく、ダウンサイジング、規模を小さくして男子校、女子校を残していく。実際、現状、男子校、女子校というのは、ほかの県立高校と比べても、志願倍率があり、高校に行きたいという生徒がいるわけですね。それをなくしてしまうのはちょっと残念だなとちょっと方向性が違うんじゃないかなというふうに考えています。

実際、今回、クレームがあったということで、男女共同参画、共学化を推進していくという部分があるんですけども、それによってジェンダー平等が改善されていくかという部分なんですけども、実際社会において、女子の方でも、今すごく努力されて、会社の役員とかマネージャーとかやっています。実際に共学化して、10年ぐらいでしょうかね、このジェンダーという言葉がこう出てきて、多分、西日本の方からどんどん共学化が進んできて、今、残ってるのは関東、以前は東北方面が多く残ってたと思うんですけど共学化したという中で、実際には現状、ジェンダーの国連の部分っていうのは多分47位だったかと思うんですが、変わっていないという状況です。もしその共学化によって、そのジェンダーのその意識が変わっていく、教育の質が変わってくるというのであれば、共学に進めるべきだと思うんですけども、実際、共学化することによって、そのジェンダーが解決できるというのはそこではないと思うんです。それというのは、小学校、中学校、そして家庭の部分、社会全体がジェンダー平等を意識して変えていくということで、認識して変えていかないと、多分、世の中社会に出た時に変わらないじゃないかと考えます。

今、男子校、女子校の生徒の方々というのは、学力の高い方々が今通ってると思うんですけども、意外と男子校、女子校の中でも、そのジェンダーという部分が、逆に普通の高校に通ってる子よりも意識が高いかもしれません。ただそれが今、我々が知る以上に子供たちはいろいろなことから情報を得ているからなんですね。ジェンダーに関する情報についても。

我々親世代が社会に出たときの男女平等の部分よりも、かなり今、浸透してきています。まだ足りないとは思いますが。しかし、子供たちは我々親以上に、ジェンダーに関してはすごく意識しているし、多分大事にするし、異性のことを大事に育ててるんだと思います。なので私から伝えたいという部分で言うと、一度共学化の推進に関しては、止めていただいて、再度その見直しをかける。理由としては公立高校の併願制の導入制とかもあると思うんですけど、いくらでもあると思います。なかなか県教育委員会の方として一度出したものを下げるということはなかなか難しいと思います。ですが、今、こういったアンケートとかこういう討論会、マスメディアも含めてですね、共学化に関しては、今一度見直すべきでは

ないかという流れもある意見もあるということを今回伝えさせていただければと思います。
以上になります。

(P)

本日はこのような場に参加させていただきまして、ありがとうございます。

私の子供は女子校の1年生なんですけども、ここまで話を聞いてくると、皆さん本当になんか勉強していて、私はその共学化のところは反対意見があるっていうことで、そのことは伝えたいなっていうことと、子供と話していてやっぱり別学を残してほしいっていう思いを伝えてきてほしいということで参加をしました。

皆さんの前で話すのが苦手で、すみませんが、上手に話せないかもしれないですけど。

私は保護者の立場であるんですけども、仕事としては養護教諭をしています。保健室の先生を30年ほどやってきています。小学校、中学校で働いてきて、高校生の子供を持って、先ほども、なんかこう意見としてはなかなか表に出せないような声があるっていうお話とか、自殺の話題なども出てきましたが、選択肢を残すことが、子供の未来を守ることなんじゃないかなと思います。たまたま、うちの子は女子校に受かったんですけど、別学を選択しても、なかなか行きたい学校が偏差値のせいでいけないとか、なかなか体調が整わなくてということで、いろいろな子供がいると思うんですね。なので、なんかこう仕事をしていても、埼玉県の様子をなんとなく見ている、共学が決まっていて、意見を聞いてますみたいな感じの空気を感じて、でも何も言わないまま、埼玉県が共学化を決定してしまったっていうことは、ちょっと嫌だなって思ったので。うちの子は中学校の時、男の子とトラブルがあって、女子の学校に絶対に行きたいっていうことで、本当に勉強して合格は手にできたものの、通いながらすごく勉強を毎日大変そうにやっているところです。なので、程よい学力のところにも多様な選択があったらいいなっていうのも子供の様子を見ていて感じます。あと、子供が入ってみて気づいたんですけど、女子校だからって、すごくセパレートされて、女子に特化したところではなくて、大学に行かせていただいたり、交流とかそういう場で、女子の学校ではあるけれども、男子との繋がりを絶ったような教育がされているっていうわけではないと思うんですね。なので、環境としては別学とか共学とか、何か保育に特化した学校とか、いろいろな学校が埼玉県にはあって、こんなに選択肢が残せるっていうのは、やっぱり私も埼玉県の財産だと思うので、選択肢があるけれども、そういう学校に入ったけれども、別の形で共学に勝ち負けじゃないですけど、共学と同等のような教育の内容ですとか、教育の活動内容でクリアできる部分があると思うし、子供も女子校に行って、日常の集中しなければいけない場所が、これまでは中学校の時は、男子にいろいろがんがん言われたり、男子と話していると付き合っちゃえばとか、なんか茶々を入れられて、学習が集中できなかったところが、高校に行って、安心して勉強に集中できるし、生活の安心で本当になんか幸せだなって言っているの、そのベースになる部分は、安心感をあげるような環境を残して、教育の内容で、いろいろな活動ができるんじゃないかなと思います。学んでいる子供たちのパフォーマンスが大きく育ってほしいし、発揮できるような学校にしたいと思うので、残っている学校の内容とかということで、どんどん変わってきているので、全部を共学化するの私は反対です。

先ほど養護教諭として仕事をしているってお話もしたんですけど、学校では例えばなんですけど、女の子の生理の話を、昔は、男の子は別室に行ってください、女の子にお話をしますとか言って、なんか配り物を隠して持って帰りなさいみたいなふうに指導してたんですよね。でも、今は、男の子には男の子の体の変化があって、男の子も女の子も平等に指導して

って、その子たちが男の子のことも知って、女の子のことも知ってっていう子供たちがこう今育っているところなんですね。その子たちが学校を選ぶ時に、どういう学校選びたいかなって意思を持って選んでというわけなので、そこで全部共学ですって、選ぶ選択肢は偏差値と内容がどうなってるのかなっていうところあるんですけども、本当に意思を持って別学が良いとか、偏差値はここだとかやっているの、その選択肢が狭まるようなことをするのは、やっぱりおかしいんじゃないかなと思うので、私は別学について賛成します。ありがとうございました。

(Q)

共学化に賛成です。うちの子は共学の学校に通ってます。子供二人です。この二人、どういうわけか同性と折り合いが悪く、同性のみの学校に通うのは断固拒否してました。私も同じです。そういうわけで、私自身は共学校に進んでいます。

子供の学校ですけど、この学校は選挙についても話し合ってます。選挙権について話をしています。そしてお米の値段、お米高いよねっていう話もします。高校生にしてはちょっと庶民的ですね。その子供たちの周りではこの話題について一切出ないそうです。とても関心が薄い学校ですね。

個人的に別学校の浦和第一女子高校、浦和高校、それから大宮高校のホームページを調べました。留学交流制度については、浦和高校が突き出ていました。これはトップです。また、これはちょっとゴシップですけどある女子高校は難関大学に合格すると、報告会というものがあるんですね。それで生徒とその合格者が直接お話できる、そういう生徒にとって、とても有益な会があるんですけど、これに塾通いを公言してる生徒、これは参加できないっていう噂があります。この噂はとっても根強いです。

全国的に知名度があって幅広い層に支持されている学校というのは多分浦和高校で問題がないと思います。これは男子校なんですね、当然ですけど。この男子校が高校の教育の天井だとすると、女子に残されているのはガラスの天井なんですよ。もしくは、短いはしご。これを改善してもらいたいと思います。以上です。

(R)

よろしくお願いします。息子がおりまして、男子校に通っています。片道1時間50分かけて、それでも絶対男子校に行きたいということで、毎日通っております。その子が高校受験の時に絶対男子校が良いものですから、滑り止めの私立も男子校選ばなければいけなくて、東京の私立男子校を受けたりだとか、男子校を求めて、結構いろいろ受けました。そんな感じで、とにかく男子校っていう子です。

どうしても女子との生活が嫌みたいで、思春期なので自分のルックスや喋り方、行動、何を取っても、女子からの鋭い意見というか、視線だったりだとかが来るのが嫌みたいで、男子校に行って伸び伸び過ごしたかったらしいです。今とってもものすごく大満足で、生活してくれています。

私自身は、女子校、女子大出身で女子だけの生活をしてたんですけども、これはこれで女子しかいないからこそジェンダーの平等性っていうか、男女の役割分担だとかを感じずに過ごしてきたので、大学卒業して社会に出た時に、もうどれほどびっくりしたことか。男性が求める社会って、細かいことでも全て女子だけで過ごしてたもので、男性はこういうことを女性に求めているんだということがひしひしと分かって、おそらく共学で過ごした人よりも、敏感に察知してたと思うんですけど、とにかくびっくりしました。そのくらい、別学で

過ごしていた方が、きちんと人間としての平等性を確保できるのかなっていうふうにも、そういう考えもできるのかなと思います。

知り合いで、中学校の教育相談室で働いてる人がいまして、心の教育相談です。その人がもう絶対に共学はやめてほしいと言っていました。高校の教育相談に来てる生徒たち、教室に行けない生徒たちを見てる先生が、とにかく共学だけにしてしまうと、本当にもう救いようがないからやめてほしい、別学の選択肢を残してくれないとこの子たちが、通いたいところに通えなくなってしまうっていうことで、すごく反対をしておりました。

そういう意見もありますし、別学だと偏差値的にちょっと高くなるっていうのを伺って、県外なのでよく埼玉県の状態は知らないのですが、偏差値が高くなってしまうとかいうのは、それはそれで、残念なことだなと思って、それだったらバランスよく、共学一本なんて私の中ではもってのほかで、別学も偏差値バランスよく残して、それで、男子校、女子校、共学校の3種を残して、それこそ多様化の社会なんじゃないかなと思うので、偏差値が届かなくて通えないっていうのはちょっと可哀想で、もうちょっと偏差値が低くても小規模で残してあげたらいいんじゃないか、とにかくバランスを考えたらいいんじゃないかなと、思います。

埼玉県、栃木県、群馬県におそらく別学校が残ってると思うんですけども、これが本当に全国から遅れを取ってるっていう見方をしているのかしらって思います。逆に、東京で私立で、別学がたくさん残っている、世界でも別学がきちんと価値あるものとして残っている理由を考えると、埼玉県、群馬県、栃木県が残ってるのが遅れているのではなくて、意義があるから残しているんじゃないかなと捉えていただきたいなと思っています。

なので、多様性っていうことを考えると、本当に別学を残していただけたらなと思います。よろしくお願いします。

【休憩】

（依田 高校改革統括監）

一通り、皆様から多様なお考え御意見を伺いました。ありがとうございます。これからの進め方ですが、今まで県教育委員会に対しての意見、疑問や質問もあったわけですが、そのうち、いくつか論点を絞った上で、意見交換をさせていただこうと思います。私の方で絞らせていただいてテーマとさせていただくのがよろしいのか、それとも皆様の方でこれはぜひ意見交換をしたいということがありましたら、そちらの方でもよいので、いかがでしょうか。

それでは、私の方でテーマを何点かに絞って意見交換のテーマにさせていただきます。

いただいた中で、比較的多い意見としては、男子校、女子校の別学校の学校行事であるとか、生き生きと生活できるであるとかという特長のお話が多くあったかと思います。合わせて、男女共同参画の視点についてのご意見もそれと連動する形であったかと思いますので、まず男女共同参画と別学・共学双方の学校の教育活動についての意見交換をさせていただきたいと思います。皆さんからの意見をもう少し詳しく伺いたいと思うのですが、県教育委員会の男子校、女子校、共学校の教育活動と男女共同参画の視点についての考え方を簡単にお話をさせていただいて、それを種にしてお話を伺うことで行きたいと思います。

県教育委員会は、男子校と女子校と共学校とそれぞれ教育活動の内容に差を設ける考えはなく、男子用、女子用の教育を県教育委員会としては提供することは考えておりません。共学校も男子校、女子校も、同様の教育活動、教育内容を前提に考えております。その上で、男女共同参画の視点ですけれども、私どもは、男女共同参画社会を共学化で推進するという考え方ではありません。男女共同参画社会の中で、今後生きていく生徒の教育の在り方とし

て、男女共同参画社会の視点を持ちたいという考え方です。男女共同参画社会の中で生きていく子供の教育のために、どのような教育をという考え方の中に男女共同参画の視点をしっかり持とうという考え方です。別学校を共学校にすることで男女共同参画社会が推進されるということを、今回の報告書の中で謳っていることはありません。その上で、県教育委員会は、男子用、女子用の教育をしようとしておりませんので、男女が共に学ぶことを積極的に考えており、別に分けることに、積極的な考え方を持っていないというのが私どもの考え方でございます。簡単にお話をさせていただきましたが、今の私の話も含めて、また、今まで皆さんが話されてきたことも含めていただいて、学校の教育活動のことと、男女共同参画の視点について、皆様からご意見があれば伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

(A)

では、男女共同参画の視点でお話しさせていただきたいと思うんですが、まず、別学は男女差別ではないということを認識しておりました。というのは、第147回国会でですね、小淵内閣総理大臣のときですね、憲法第14条の趣旨を踏まえて、教育基本法で、別学はですね、教育上、男女の共学は認められなければならないことが定められているが、これは男女に対し性別に関わりなく学校における教育を受ける機会を均等に付与し、男女共学を一律に強制するものではないと、小淵さんがおっしゃっていただいたんですね。それを踏まえて、先ほどお話ししてしまったんですけれども、埼玉県の方で、男女別の教育をこれからも設けることは考えてないとおっしゃられたんですけれども、まさにそのとおりだと思いますし、息子が通っている高校もどちらかというと、人が育つ、そのような学校を作ってるんですね。人というのは生徒です。息子ですね。それぞれ一人一人の生徒が先輩も含めてですね、最後まで全力で出し切る、失敗しても失敗を恐れない、それはまた行事の話になってしまいますが、マラソンとか文化祭、あと、一部でオタクと言われてしまうような将棋やクイズとかそういったことにもですね。全力を出し切ってっていう、先輩たちが作り上げてきたその校風の中で、大学受験に向けて頑張るっていうところなんですけれども、特別何かしてもらってるわけではないんですね。特別なことしてもらってるかもしれないんですけれども。どちらかというとですね、精神を作り上げて、精神ですね。ちょっとうまく言えないんですけれども。なんで浪人なのかっていうこともおっしゃられたんですけれども、失敗を恐れず、全力を尽くして、入れる大学ではなくて、チャレンジしようじゃないか、仲間とともに3年間、いろいろな荒波を超えて、台風が来ても雨の中ドロドロになって裸になって、それをですね、外の水道で体を洗ってギリギリのところの精神状態の中で、俺たち体育祭やったじゃないかっていうその精神ですね。それを大事な人生の岐路に立ったところで、ぶつけるっていうそこなんです。なので、もし息子の男子校に女性が入ってきたら、おそらくそういった校風がなくなると思います。おそらく、浪人率も下がると思います。もっと現役でいけると思います。ただ、難関大学とか、そういった自分のちょっと背伸びした、挑戦しようっていう文化はなくなるので、おそらく均一化した普通の高校になると思います。それを皆さんが望むなら、それでいいと思います。ただ、男女差別っていうのは、多様性の意味では逆だなと思っていますので。男子校、女子校、共学校の中から自分に環境にあった学校を選ぶっていうことが、本当の平等だと思いますので、よろしくお願いいたします。

(B)

私は男女共同参画を望む人間です。ただ、男女別学校が男女共同参画に有意義だっていう議論があまり出てないような気がしますので、特に女子校が有意義だというようなことには

なってしまうんですが、いろいろな教育論や新聞記事などでも、女子校が有意義であるということの記事はよくあります。例えば朝日新聞さんなどで読んだ記事なんですが、性別によるあからさまな差別は減っているが、アンコンシャスバイアスはまだ残っている。女子校で多くのロールモデルに出会い、女性のキャリア形成を支援する教育を受ける意義があるなどという意見もやっぱり専門家からあります。

また、ジェンダー論やフェミニズムの本なども私読みましたが、女子が自立心やリーダーシップを養えるっていう女子校の場合は利点があるという意見もあります。

いろいろなそういった事例、研究がありまして、別学校でこれくらい、こういった良い点がありますというような、そういったものを出している学者さんも世の中にはたくさんいらっしゃるし、そういったような状態、世間一般ではそういった賛否両論と言いますか、そういったことになってるとは思います。

そして、埼玉県の場合はですけども、県立女子校が昔は特に男女共同参画の担い手となっていたように私は思います。現在は昔に比べ影響力が小さくなってきたかもしれないのですが、男女共同参画の象徴であるとは思っております。そういったものを仮に無くすという場合は男女共同参画が弱体化するのではないかと考えております。

また、人口密度が低い地域では、今でもそういったジェンダー的な意識が人口密度が高いところに比べて低いというのがありまして、私自身も県北で仕事をしていたこともありますので、そういったことがあると思いますので、県北でもやはり女子校、男子校は存続させるべきである、その方が有意義であるとは私は思っています。ですので、男女共同参画の面から男子校、女子校を残したら、利点があるという議論もしてほしいなと思っております。

(H)

さっき、男子と女子で同様の教育内容を目指しているとおっしゃっていましたが、やはり、男子の体格、女子の体格、あとは、頭の脳の違いっていうのも明らかに男子脳、女子脳の違いがあります。その中でまるで同じような人を、口が悪いかもしれないけど、つまらない人間を生み出すような教育になってしまう、可もなく不可もなくみたいな教育を生み出してしまう教育方針を推進しているのかなという意見を私は持ちました。つまらないんじゃないかっていうところです。

私は、職業は看護師をやっているんですけど、10年間救急診療科で働いていました。1年前から今産婦人科で働いていますけれども、子供の自殺率本当に高くて、中学生の自殺は私も何人も見えています。県北です。やっぱり子供が安全に生活をする場所として、家庭もそうですけど、学校もそうです。学校に行きたくない、だったら死んじゃうとか。だから、夏休み、や春休みに自殺が多いってそういうことですよね。行きたい学校を作るという方にシフトしてもらいたいと思います。あと産婦人科で働いてるって言うんですけど、人工妊娠中絶もすごく多くて、その人の育ったバックグラウンドとかもありますけど、それによって学校に行けなくなっちゃう子供もたくさんいるので。一律に同様の教育をするっておっしゃいましたが、「同様の教育をする＝男子校、女子校を無くす」というのはイコールではないとは私は思っています。もちろん男女共同参画で、男子も女子も同じような機会をつていうのは分かりますけれども、では一律にそれを押し付けて生きにくい子供がいる。結構、私は深刻な問題だと思っていて、やっぱり親の貧困と学力にも影響しますけれども、そういったようなものにもちゃんと目を向けてもらいたいと思います。あとは、新聞報道とかでもいっぱいありますけど、なんでいつも浦和高校が叩かれるのかっていうのもすごく疑問に思っています。これ多分同意していただける方がたくさんいるんだと思うんですけど、何かこう裏の

力が働いてるんじゃないかとか、後はちょっともしかしたら私学の方に学生を増やしたい、少子化があるので、やっぱり利益優先をしている私学の方に学生を増やしたいっていうような意図もあるんじゃないかと私は思っていますけれども、その辺も聞いてみたいなとは思っています。

(Q)

私は他県出身なんですけど、ここの地区で分かりやすくてとえて言うと、浦和の男子校が共学化した高校の出身になります。そういう感じの高校を卒業しました。なので、男女が同じような教育をまさに受けたわけです。それで大学に進学しました。ちなみに私の学校の浪人率もすごく高くて、共学化して30年くらい経っていましたが、4年生高校って言われてまして、当時、団塊の世代ジュニアですけども、大学ヘストレートで進学したのは推薦の人、短大の女子、それからほぼ私だけですっていう脅威の浪人生の多さでした。だから女子にも同じ環境を与えればガッツがあると思います。そして、マラソンをありましたけど、男女別のマラソンなんですね。私たちの時代は。体育は男女別だったと思いますね。でも今は体育はものによっては男女共同のはずですよ。

それから、男子校のマラソン、持久走がありますよね、タイムトライアルみたいな。あれもなんか、連帯責任が問われるみたいなのがちょっとあったりなかったりするみたいな噂も流れてますが、女子でもいろいろな女子がいて、例えば陸上で一番早い女子もいるって感じで、平均的な女子、平均的な男子でまあまあできると思いますけれどね。

先ほど女子脳、男子脳の話もありましたけど、理数系に強い脳が男性に多いっていうだけなんですね。女子は違う能力が強い人が多い。もちろん別の人もありますし。

一つ聞きたいことがあったんですけど、今、自分のお子さんが別学を希望されてる。男子校だったり、女子校だったりする。そのお子さんがもし別の性別でも、やっぱり別学を希望しますかね。

(H)

選んでもらえばいいと思います。だから選択肢を残せばよい。

(Q)

山形にあるんですけど、形式的には共学化したんですよ。そしたらそこに入る生徒が男子しかいなかった、女子しかいなかったという状況だった。そういう学校があるんですね。実際に今もそうです。なので、一旦形態を共学にしてもらっても、実質男子校だったら、機会を与えてるわけですよ。だから問題ないような気もしますけど。それは生徒自身が共学化された浦和第一女子高校に通いたい生徒は、女の子だけ。でも制度上は共学である。浦和高校も川越高校も制度的には共学だけど、女子トイレもあるし、だけど通ってる子は男だけ。そういうことも全然ないわけではない。実際にそういう学校があるんだから。そういう事例もあるってことをご紹介しました。

(I)

先ほど県教育委員会の方は、別学も共学も同じ内容教育してるとおっしゃってました。それは本当にそうだと思います。今もそうだと思うんです。ただ、実際通っている生徒に生物学的に差があるので、若干特色が出る、生徒の実態に合わせて、個々の特色が出たりとか、そういうことはあると思いますけども、例えば、男子校を教えている先生に男子はここまで

は教えなくちゃとか、女子校で教えてる先生に女子だからここまでいいやとか思ってる先生はいないと思います。みんな先生方は平等に目の前の生徒に対して最高の教育をしようと頑張っていると思います。ですから、今までなんか問題があったのかなってことです。最高の埼玉県教育に。

今回、つまり共学化の波がどうしても外から、国でもお上でもなく、外部団体から共学化した方がいいと言われて、もしかしたら埼玉県や県教育委員会も困ってるんじゃないだろうかと逆に心配になってしまうくらいです。言われてからどうしようもなくって言うんじゃないかと。

先ほど、行きたい学校を増やす、生徒の多様化に合わせるというご意見、それに合わせて、むしろ男女別学校をいろいろな偏差値帯に作ったらいいのではないかと、これは活気的な意見だと思いました。不登校の子が通いやすいの学校を作ろうという流れもあるくらいです。いろいろな学校ができる可能性を、親の貧困も考えれば、むしろ公立がそういうことすべきです。公共の福祉のために。多様な選択肢の中から、未来の国民、県民になる子供たちが選んで、自分を伸ばしていけるというのができたら素敵だと思います。日本の未来も明るいと思います。

共学化の中に男女がその間に過ごすことに意義があるってことの中に、男女の理解が進んで、結婚率が上がるとか、その辺による少子化が解決するとか、そこまで考えてたら、それがちょっと違うかなと思うんですね。今非婚化がどんどん進んでますけども、正直、今のその結婚世代っていうのは、むしろ学校がどんどん統合されて、私立女子校が共学化になるとか、それから公立でも維持できなくて、学校でも手放していくとか、そういうことの流れの中でむしろ共学は増えてると思うんです。それでも非婚率が上がっているっていうのは、これは高校世代で全部共学化にしたところで、少子化の問題、非婚化の問題は解決しないってことではないかと思います。よって、3年間、生徒の多様な可能性をまた、さらに公立だからこそ税金で、いろいろな学校を用意すべきっていう意見は、画期的だと思いますし、でも財源には限りがあるので、だったらせめて現状維持でという考え方もあるんじゃないかと思っています。

あと、こういう議論はもう10年も20年も長く続けていく、結論はその間に出てくるかもしれません。早急に決めることでもないのではないかと思います。以上です。

(C)

今、依田さんからいただいた話っていうのは、教育活動としてどういうことをやっていくのかって話だと思うんですけども、それはどの学校に対しても同じような教育方針の教育活動をやっていきますということだと思うんですけども、それは当たり前だと思うんですね。それに対して、今日の参加者の方々の多くの認識としては、各学校の在り方、姿の話をされてるのかなと思って。そこはちょっとなんか論点にズレがあるような気がしています。

多くの場合、今の別学であるという状態そのものが、各学校の特色であったり魅力であったり、アイデンティティになってるのかなと思います。あるいは倍率など見てもある程度のニーズがあるといえるのかなというふうに承知をしています。そういった在り方、姿を変えるという場合、何で変えるんですか、そのメリットは何ですか、デメリットは何ですか、問題点は何ですかっていうようなところをきちんと説明していくと、そういう視点が必要なのかなというふうに思っています。なのでちょっと視点が違うのかなというふうに感じました。ということと、今の話をもってしても、いわゆるその各学校において教育活動として落とし

込もうとしている男女共同参画の視点とは何か、というのがよく分かりませんでした。なので、そこをきちんと説明する必要があるかなというふうに思いました。

あともう一点だけ。私は、宮城県の出身でして、途中埼玉に引っ越してきたんで、宮城県の共学化のこともよく知ってます。先ほど私も、公平性、代替性の観点もっていうふうに申し上げたんですけど、私、仙台市に住んでましてね。仙台って一高、二高、三高ってありまして、男子校、女子校それぞれあったんですよ。でも、仙台市って、太平洋側の海沿いから山形県の県境辺りまで全部仙台市なんです。電車とかバスの交通網があまりありませんので、子供が通える範囲は、仙台と言っても限られるのですね。それに対して、埼玉県は、幸いなことに、地域にもよりますけれども、一般的に通える範囲っていうのはかなりあって、これは公平性、代替性の観点っていうことだと思うんです。その選択肢の範囲内において、男子校、女子校、共学校がそれぞれ存在するということは、全く理に適っているということだと思ってます。宮城県の状況とはちょっと違うんだと思うというところが、実際住んでたんで分かるんで、その辺もご認識いただけるといいのかなというふうに思います。以上です。

(G)

今、いろいろ聞いてて、最初、県教育委員会の方から教育活動に差を設けるつもりはないということで、共学化は、共同参画を推進する道具ではないよということをお話いただいたと思います。では、どうしていくかっていうところで、今ここで多分議論して出てくるのは、どうするのが見えない中でやっていくとなると、先ほどQの方が言っていた箱は共学だけど、実際は男子しかいません、女子しかいませんっていうのは実際あるわけで、具体名だと盛岡にある確か県立盛岡第二高校ってところがあるんですけど、こちら共学校なんですけど、女子しか通っていないんですよ。もう50年ぐらい女子しか通っていない共学校の公立高校。実際あるんで、そういう考え方はあるのかなっていうことを、Qの方に言ってもらってその手はあるよねっていうふうに思いました。

また、今回の話に来て、新聞報道を見ていると、県中心部の浦和高校とか名だたるところばっかの中でやっている取組だったので、どうしても一部の人がやっているっていう印象が強い中で今日来たんですけど、Iの方が、鴻巣女子高校とか具体名を出していただいたということで、本当にこれは大事なことだと思います。被害が起きるっていうのは、これは絶対ないとは言えない、悲しいけどあることで。そういうことのシェルターとして鴻巣女子高校の存在っていうのは自分も必要だと思っています。久喜にもありますけど。そういう学力ではない、シェルターとして。変な言い方ですけど、上尾市には上尾橋高校があるんですが、こういう高校がなんで必要かってなった時に、とりあえず中学を卒業して、親だって心配するし、本人だって高校は行きたい、でも、どうしたらいいんだって時に、そういうセーフティネットとしての高校っていう選択肢としての役割を上尾橋高校が担っていると思うんですよ。たまたま仕事で上尾橋高校の生徒と触れ合った時に、本当に失礼な言い方ですが、この子、本当に大丈夫かなと不安になっちゃうような子だった。でも高校生として学校行くわけですよ、電車、バスを使って、駅から遠いから。それでも学校に行く、社会として関わっていきたいんだと、そういう中でやっていくってなった時に、今皆さん、自分の子供が通ってるから、そうなってくると、浦和高校とか熊谷高校とか、春日部高校、浦和第一女子高校とか、そういうところに名前がちょっと出ちゃうから、自分みたいな人間からすれば、ちょっと上ずっているように見えちゃうけれど、そういった視点から見た時には、鴻巣女子高校とかそういうセーフティネットとしての別学、これは県教育委員会が言った教育活動に差を設けるつもりもない、男女共同参画で共学化を推進するわけでもないって言った時に、ここは勧告

を受けても自信を持ってやっていくという、腹は据えてもいいのかなというのと思います。たまたま今回この議論の俎上に載っているところは、たまたま学力が上のところが集まってしまったがゆえに、変な格差を生む道具として、起きているんじゃないかと、そうなってしまっているのであれば、それは県教育委員会としてどうしていくか、別学はもう作る予定がないんだったら、共学の進学校で肩を並べるようなところを今ある既存校から、私立じゃないからいきなり学力に力入れますとかも言えないのかもしれないけれど、そういうのをやっていけばよいと思います。そのガラスの天井というのは本当はこれ良くない問題です。たまたま浦和高校が埼玉県立高校でトップが故に、浦和高校行っちゃったから、男子が上に見えるようになってしまふ浦和第一女子高校が浦和高校に勝てないってなったら、ガラスの天井になってしまふ。それを回避するために私立都内へ行く。そんなことやっていたら、埼玉県の教育としてももったいないだろうし、そこは県教育委員会が、ただ共学化を進めるではなくて、別選択肢を設けるというところで、これは考えられる選択肢を県教育委員会も考えていって、ただ共学ではなくて、そういうところを作っていけばいいのかなというのと思いました。以上です。

（依田 高校改革統括監）

時間が残り僅かとなってきましたが、この後、選択肢の話であるとか、学校の特色の話とか、そちらの方にも話を向ける必要があるのかなとは思ったんですが、とりあえずこのまま行かせていただいてよろしいでしょうか。それでは、進めさせていただきます。

（K）

先ほども私は県外出身ということだったんですけど、実は浦和高校、浦和第一女子高校が県外から見ると男女別学だったんだというような思いしかないんですね。実は、箱物っていうことで、高校の方も箱物なんだろうなっていうこともありまして。ただ、埼玉県に住んでる方も思いを聞くと、浦和高校、浦和第一女子高校、レベルの高い高校ですけど、いろいろな指導方針があって、いろいろな先輩方の思いもあって、様々なところで築き上げられている高校なんだろうなってことを、県内で初めて住んでみて知ったっていう思いもあります。ただ、先ほどGさんがおっしゃっていたように、やはりレベルの高い高校だけ別学で残すというのではなくて、うちの近所には鴻巣女子高校もありますし、また県北に行くと熊谷女子高校もあります。やはり公立高校に行きたいっていう子供はいると思うんですね。その中で別学に行きたいけれども、レベルが高いから自分は無理。埼玉の高校受験の仕組みが私も全然分からなくて、私立に行かしてしまった方が早いとか、中学受験させてしまった方が、手っ取り早いなということで受験をさせてしまったんですが、子供を受け入れる受け皿っていうものをもうちょっと広く持ってほしいっていう思いもあります。また多くの子供が生きにくい社会にはいけないなっていうこともありまして、子供に選択肢をたくさん与えることが大切だと思います。埼玉の私立とかだと、確約制度というなんかよく分からない制度があって、ほかの県の人から見ると、何それっていうような、業者テスト、何それっていうような思いなんですね。そういうところから、毎月毎月業者テストを受けて、学校の説明会に行って、今の成績こうだから確約くださいねっていうような社会って、私の中ではちょっとおかしいと思うんですね。これから埼玉県も受検制度がどんどん変わってくっていくことも聞きましたので、そのような形で、差別のない教育っていうのは本当に必要なもので、その部分を埼玉県教職員の方も、すごく自信を持って、埼玉県は別学で良いんだとか、そう

いう方向で、別学ということをお子さんが希望しているのであれば、そのような方向で考えを進めていただきたいと思います。以上です。

(L)

議論が戻っちゃうところもあるんですけども、男女共同参画って、男女が共同で何かをするっていうことに対して、男性と女性が全く同じことをするっていうわけではなくて、男性と女性がそれぞれの特徴っていうのをちゃんと認識して、違いをしっかりと把握して、協力できるところを最大値で協力して良い世の中を作っていこうということなんだと思うのですけれども、高校の3年間で別学の学校に入った際に、男子は男子、女子は女子のベストの状態、自分たちの限界はどこなんだということを認識することができると思うんですね。その限界、自分たちはここまでできる、自分たちはこれはちょっと苦手だっていうところが認識された状態で、再び男女が一緒になった時に、一番高い質同士で共同することができるんだと思うんですね。なので、共学で学ぶことを否定してはいるわけではないんですけども、別学で学ぶっていうと、なんか男子は男子で、女子は女子でこう離れていっちゃうようなイメージを持たれてる方が結構いらっしゃると思うんですけども、そうではなくて、しっかりと人と人との違いを認識して、その違いをちゃんと埋められると、ベストな状態で埋められるっていう状態が別学っていうのはその機能があるんじゃないかと、私は思っているんですね。

県教育委員会でも、共学化の今の問題点として、男女の役割が自然にこうすみ分けられてしまっているっていうのが大きなデメリットだっているのを認識してとお話が以前あったと思うのですけれども、それはそれで、今後、解決していく課題にはなるとは思うのですけれども、どちらもメリットとデメリットが存在するので、共学一本化にするっていうことは必ずしも男女共同参画に進んでいくっていうことにはならないのと思っています。

別学があるのがもう数県しかありませんので、無理な話なのかもしれないですけども、別学と共学でどういう特性が出てくるのかとか、どういうパフォーマンスが出てくるのかというのをむしろ別学がある状態の時にデータみたいな取って検証してみたらどうなのかなってことだったりするんですね。どこをエンドポイントにするのかというのはすぐには分からないのですけれども、そういったものもやれるといいんじゃないかなって一つ思っています。

あと、先ほどGさんの話にありましたけど。浦和高校が今一番高い学校だという認識が、伝統があるので、そういう認識がされてるんだと思うのですけれども、実際、おそらく共学の大宮高校がもう浦和高校と肩を並べていると思うんですね。現役の難関大学への合格はもしかすると、もう大宮高校の方が上なんじゃないかなと。大宮高校の中でも理数科というのがあって、そこはもう抜いていると思いますね。共学校の中にもそういったところが県教育委員会の中でも努力をされていて出てきているんですね。共学されている学校の中でも、そういったところが、今後も多分出てくるとは思いますので、その問題というのは、おそらくクリアできるんじゃないかなと思います。県教育委員会の方で頑張っていて、並んでいる状態っていうのがだんだんできていくので、それはあまり問題ないんじゃないかなという気はしています。

(D)

すみません、時間を超えてるところ申し訳ないです。今日お話を聞いて、非常に大変勉強になりました。ありがとうございました。

おそらく別学維持したいという方々の趣旨はよく分かるんですけども、小中の義務教育も別学にしようと思わないですね。高校３年間だけ、なぜ別学にするのかっていうのは私の中でどうしても、私が共学なので違和感があるので、もう少し納得できるような理由について示していただきたいというのが一点です。

それから、別学に通わせてるにもかかわらず、私だけ共学の方がいいと思ってるんですけど、多分この急激な少子化の中で、おそらく高校もかなり統合してきて、息子の高校もおそらく統合みたいな話が多分出てくる可能性が十分ありえて、最後に残ったのが浦和高校、浦和第一女子高校みたいな。そこになる前にやっぱり県民の決断として総合的にぜひ考えてほしいなと思います。以上です。

(F)

今日こういう機会で皆さんの貴重な意見を聞くことができ、本当に有意義だったと思います。これだけたくさんの意見があって、それは今後の行政というか、教育行政に反映っていうのはどういう形でされていくのかっていうのが知りたいのと、あと、こうやってお話しすることによって、分かったこともたくさんあると思うんですね。実際に、教育委員５人いて、教育長が一人いらっしゃると思うんですけど、その方と話す機会っていうのは設けることは可能ですか。というのは生徒が、部活に勉強に忙しい中、一定の想いを持っていてこういう会に出てきたり、署名やったり、ウォーキングもやったりとかしてるので、その思いを直接伝える機会をぜひ作っていただきたいです。教育委員の方５名、教育長、大野知事が最終決定権者だと思うので、そういう機会のアレンジをぜひお願いしたいと思います。

(依田 高校改革統括監)

おそらくもう１０を超える県教育委員会へのご要望やご質問があったんですけども、なかなかお答えする機会がありませんで、申し訳ございませんでした。

一方的な最後の話になってしまうかもしれませんが、いくつかの点で、県教育委員会の考え方についてお話をさせていただいて、締めくくりとさせていただきたいと思います。

先ほど、簡潔に県教育委員会はこういう考え方だという方をお話させていただいたんですが、さらにその後いただいた意見を踏まえてお話をさせていただきますと、男性と女性のその特性についてですが、男性と女性の特性は、ある部分もあるし、ない部分もあるということはこれは事実だと考えております。一方で県教育委員会は、その特性に基づいた教育を進める考え方を持ってはいません。男性、女性の特性よりも、先ほどもお話がありましたが、一人一人の個性、特徴に合わせた教育を優先したいと考えております。男性でも、例えば女子校の行事に参加したい人がいる、女性でも男子校の行事を好む女性がいる、そうした一人一人の特徴、個性というものを考えながら、生徒と教員が学校の教育活動、校風、伝統を作り上げていくものだと考えております。

もう一点、選択肢ということと、広い受け皿というお話が皆様からありましたが、県教育委員会は、男子校、女子校、別学校の意義は、今日、皆さんからお話いただいたお話は十分理解をしております。また今日のお話も十分受け止めさせていただきます。それは一つの学校としての男子校、女子校ということが特長というものがあることは認識しておりますが、県教育委員会はその選択肢という部分で、例えば農業であるとか、工業であるとか、普通科の中でも特色のある普通科といった、学びの内容と、個人の希望と能力に応じた選択肢というものを県教育委員会は優先的に考えております。

別学の意義は理解をしておりますが、今後の少子化に当たっての、高校の再編整備などを踏まえると、私どもは主体的に学校の再編を進めておりますので、共学校と同様に別学校も、今後の再編整備の対象となっていく必要があるという考え方で、主体的に私どもが今後の共学化も学校任せにしないで進めることとしたところです。

その他、様々多様なご意見をいただいたところです。最後、今後どのように生かしていくのかというお話もありましたが、どのようにということではっきり申し上げられることはありませんが、私が県教育委員会を代表して皆様と意見交換をさせていただいております。教育委員5人も、日吉教育長も全く私と一緒にございます。私が話した内容が県教育委員会の考え方でございますし、私が伺った皆様の話は、しっかりと教育委員全員で共有をして、今後の県教育委員会の事務の参考とさせていただくこととしますので、そこについてはご安心、ご理解をいただきたいと思っております。

時間がオーバーしてしまいまして、進行が悪かったと思います。^{かっかそうよう}隔靴搔痒の部分も皆様お感じな部分が多いと思います。この後アンケートなどでそのような部分をお示しいただければ、今後こうした様々な会を持つ上での参考にさせていただきます。また、時間の関係上、言えなかったことなどもありましたら、そういったことも含めてご記入いただければ、そういったことも含めて全部教育委員と共有します。

(保護者・発言者不明)

教育長には会えないということでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

会えるとか、会えないとかをここでは私は申し上げないです。ただ私がお話することは教育長と一緒にだということをお話申し上げました。

(F)

そういう要望があったってことはお伝えいただけますか。

(依田 高校改革統括監)

もちろんです。あの、今日皆さんがお話いただいたことは全て教育委員全員に、共有をいたします。

(F)

フィードバックもできればしていただきたいです。どういう形になりそうですか。

(依田 高校改革統括監)

フィードバックという形では難しいんですが、県教育委員会で報告をして、教育委員の方に伝えるようにいたします。

(保護者・発言者不明)

要望の結果っていうのは、私たちに開示されるのでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

結果というものはないです。

(保護者・発言者不明)

では、質問しっぱなしってことですか。

(依田 高校改革統括監)

意見交換を参考にさせていただくので、結果として、今後別学が残るのか、それとも別学の中で共学になる学校があるのかが結果になってくると思いますが、これが直接的な結果になるわけではございません。様々な所で意見交換をしたり、様々なお話をしている中で総合的に勘案していきますので。

(H)

私たちの声が届いたっていう事実だけは、教育長には伝わるということですよ。

(依田 高校改革統括監)

今日の議事録も全部全て読んでもらいます。私の方も直接、全員と話を何度もしたいと思います。

(H)

知事には、この話は行くのですか。

(依田 高校改革統括監)

知事は県教育委員会ではございませんので、知事に、どうするのかは私の方で判断をしますが、知事は直接的にこの件については関係をしておりません。学校の教育内容は、県教育委員会が責任を持っております。

(O)

意見交換会が一通り終わりましたが、この後、県議会の教育部会とかがあると思うんですけど、そういった中で、今回シェアした意見とかは当然、発表された中で議論をされると思うんですけども、今後の予定の中で、共学化の推進について、県議会で議題になるのかといった予定はあるのでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

私が今伺ってるところでは、そういうような議題になっているという話は、私は伺っておりません。そこは議会の判断になります。

(O)

県教育委員会の方から、意見交換会をやりましたよということを、教育部会の方々にはシェアされるということでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

文教委員会というのがありますが、今回こういう意見交換会があることについてはお話はしております。ただ、議会ですので、私どもが議会で、進行役を務めているわけではござ

いませんし、議会の議事、議題、報告内容も議会が何をしたいかですので、そこは議会次第です。

(O)

できれば、その我々が、今後どういう形で進むのかのプロセスが見える形にさせていただきたいので、県教育委員会が発表するとか、県議会に出すとか、そういった共学化推進に向けた形を、どうしていきたいのかを出していただければ、発表という機会を県教育委員会で作っていただければと思います。

(依田 高校改革統括監)

県議会については私がお話をできることはないんですが、県教育委員会については、なるべく開示をして、見える化を図っていくように考えております。

本日はどうもありがとうございました。